

令和6年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

○構成員 計13人

<内 訳>

県医師会1人(病理診断科)、大学教授1人、がん患者支援団体2人

PTA1人、校長3人、養護教諭2人、市教委1人、県衛生主管部局1人、県教委1人

2. 開催時期、検討内容

○第1回(8月7日 集合開催)

- ・協議会設置要項の確認
- ・本県のがん教育の課題や目標等の共通理解
- ・具体的取組計画(がん教育指導者研修会の実施や外部講師派遣の実施、先進的な取組事例の周知、がん専門医とがん経験者のペアでの派遣検討、がん教育外部講師リストの活用)の内容について

○第2回(1月24日 集合開催)

- ・令和6年度事業報告
- ・取組成果の検証及び次年度事業計画の検討等

② 教育委員会としての取組

○がん教育指導者研修会(10月10日 WEB開催) 講師:がん専門医

- ・がん教育推進の中心を担う管理職や保健主事及び養護教諭等の学校職員、外部講師候補の医師・看護師・保健師やがん患者支援団体を対象に実施した。

・参加者 173名

(内訳:教職員157名、医師・看護師5名、保健師6名、がん患者支援団体4名、行政職1名)

○がん教育の推進に向けた先進的な取組の事例発表(10月10日 WEB開催)

- ・発表者:県立高等学校養護教諭
- ・各学校における取組の参考となるよう、研修会において前年度推進校の実践発表を実施した。

○がん教育外部講師派遣(小学校8校、中学校5校、高校3校 特別支援学校1校 計17校)

- ・希望する学校へ外部講師を派遣し、地域のがん教育推進校として講演会等を実施した。

○外部講師を活用したがん教育の先進的な事例の周知

- ・各学校の取組の参考となるよう、各推進校における講演会等の状況や児童生徒の変容を県のホームページに掲載した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○学校への外部講師派遣については、教育委員会で希望をとりまとめ、講師の調整は関係機関に依頼し、派遣している。

- ・保健部局については、「がん診療連携拠点・推進病院」や「がん診療離島中核病院」からの外部講師(がん専門医、専門看護師等)の依頼について担当している。

・県医師会とは、講師の派遣を依頼できる連携体制が構築できている。

○保健部局及びがん患者支援団体と連携し、外部講師派遣リストの更新・拡充を図った。

(2) 外部講師を活用したがん教育の授業

① 長崎県立茂木中学校

○テーマ「がん患者への理解と共生」

○全学年

(生徒 59 名 学校職員 10 名 その他 4 名)

○道徳

○講師：がん専門医・がん経験者

○授業内容

長崎県内で初めて 2 名の講師（がん専門医、がん経験者）ペアでがん教育が行われた。がん専門医からは、発生のメカニズムや近年の状況などがんに関する専門的な話があった。

がん経験者からは自身の体験を中心に話があり、自分のこと、家族のこと、友人のことなど当時の様子を包み隠さずストレートに伝える言葉（辛かったことや苦しかったことだけでなく、嬉しかったことや助けられたこと）を聞き、生徒や参観者が涙する姿も見られた。

2 名の講師を派遣し、それぞれの話を聞くことで、複数の角度からがんについて考えることができた。

② 島原市立第五小学校

○テーマ「がんについて学ぼう」

○6 学年

(児童 53 名 学校職員 6 名 その他 32 名)

○特別活動（授業参観）

○講師：医師

○授業内容

今回は、学校が「がんについて家族や地域の方と一緒に学ぼう」という目標を設定し、授業参観のタイミングに合わせて実施された。

文科省作成のスライドを一部活用され、分かりやすく資料を構成されていた。

がんについて悪いイメージだけでもつのではなく、望ましい生活習慣で罹患する可能性が低くなることや、検診による早期発見で治る確率が非常に高くなることなどに触れ「努力をすれば必ず報われる」と、児童が前向きに考えることができるよう伝え方を工夫されていた。

学校のねらいである「一緒に学ぼう」を達成するために、家族や児童民生委員と共にごんについて考える機会をもつことは、児童にとって有効な手段となる。アンケートから「日常生活の中でがんを話題にする機会が増える」効果を期待させる回答も多く出た。

家族の体調に注意を向け「定期健診について確認をしよう」「普段の生活の様子をチェックしてみよう」など家族を思いやる場面を連想させるよう、問い掛けも工夫がなされていた。



③ 県立佐世保東翔高等学校

○テーマ「がんについて正しく理解し、
命の大切さを考える」

○全学年

(生徒257名 学校職員20名)

○講演会

○講師：がん専門医

○授業内容

講話の内容を前後半（前半：がんについて
後半：命の大切さ）の2部構成で行われた。

キーワードを再確認し、まとめの時間を設
定することで、ポイントがまとめられていた。

説明を行う際も、具体的な数値を取り入れ、
医学的な内容についても分かりやすく丁寧に
生徒に語り掛けられていた。

ストレートにがんに焦点を当てるばかりで
はなく、自分の経験談を活用しながら生徒に
問い掛け、「教える」ではなく、「気付かせる」
よう話を進められた。



(3) その他

①離島が多いという本県の特徴もあり、以前は離島地区の希望校への派遣講師の確保に苦慮することがあったが、県保健部局の協力により離島中核病院の講師登録が充実してきたことにより、それぞれの島内で講師を確保できる体制が整備されてきた。

②初めて授業参観の中でがん教育を実施した。保護者だけでなく児童民生委員など児童に関わる多くの方の参加があった。アンケートに「今日、夜にお父さんを含めて子どもと話せたらいいなと思います」や「家族のためにも健康でいる努力をしたい」などの言葉があった子どもを支える大人も同じ内容を聞いたり考えたりすることで、日常生活の中でがん教育が話題に挙がることにつながり、地域全体でがん教育について考えることができる良い環境作りにもつながったと考える。

2 事業の達成度について

- 協議会では、がん教育を行うことの必要性をするとともに、それぞれの立場から情報提供をいただきながら今後の取組推進について課題の共有を図った。また、新たな取組の報告・協議を行うことで良い点や課題を共有することができた。
- がん教育指導者研修会については、がん教育の推進活動を積極的に行っているがん専門医にご講義をいただいた。受講者の理解度は「理解できた」89.6%、「やや理解できた」10.4%と非常に高評価であった。感想の中に「地域がん診療拠点病院としてもご協力したい」といった話もあり、がん教育について「自分に何ができるか」を改めて考えるきっかけとなったようであった。
- がん教育の推進に向けた先進的な取組の事例発表として、研修会の場で令和5年度のモデル校に自校の取組を発表してもらった。本実践発表における受講者の理解度は「理解できた」87.9%、「やや理解できた」12.1%と高評価であった。発表を聞き、「やらねばと意欲が湧きました」「イメージできなかったものが明確になりました」という感想が多くあり、がん教育の啓発に効果的な発表となった。
- 17校に外部講師を派遣した。児童生徒に対するアンケートでは、「がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ」の問いに「そう思う」と答えた児童生徒が、実施前78.5%から実施後87.2%に増加し

た。また、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」が、実施前 55.3%から実施後 73.3%に、「がんと健康について、身近な家族から語ろうと思う」が、実施前 43.4%から実施後 61.0%にそれぞれ増加するなど、顕著な変容が見られた。児童生徒の感想の中には、「がんにかかりにくくする方法が分かったので、これからは工夫して生活していこうと思いました。」や「がん患者に寄り添えるよう、がんについてしっかり理解して助けていきたいです。」といった内容が記されており、がんに対する正しい認識や理解、命の尊さや他者を思いやる気持ちについて深く考える機会になったことがうかがえる。

- 今年度は、本県で初めて講師のペア派遣を行った。がん専門医からはがんに関する専門的な話、治療や緩和ケアなどの話があり、がん患者からは自身の体験を中心に、辛かったことや苦しかったことだけでなく、嬉しかったことや助けられたことなどの話があった。2名の講師から話を聞くことで、生徒は複数の角度から多角的にがんについて考えることができ、とても有意義な時間になったと感じる。
- 今年度も引き続き関係機関との連携することによって、県内各地のがん医療に携わる12の病院から専門医、看護師を派遣することができた。多くの方にご協力いただき、医療関係者の方々からも「どうすればがん教育の講師ができるのか？」といった声上がるなどがん教育に興味関心をもっているように感じている。

3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

- 外部講師リストの拡充について
個人でがん教育講師を希望する方の登録方法について、整備していく必要がある。
（現状）県保健部局の協力を得て、がん診療に関わる連携拠点病院や連携推進病院、離島中核病院から登録いただき、更新をしている。
（課題）・個人で登録を希望する医師等の登録の方法の整備 ・登録の際に、必要となる条件の整理
 ・がん経験者の扱いはどうするか ・外部講師リストの活用実態の確認をどうするか
（取組）県保健部局と連携しシステムを確立する。周知についてはHP等の活用を検討している。
- 講師のペア派遣について
（現状）今年度初めて実施し、ペアで派遣することについては有意義な取組であると認識している。
（課題）・がん教育にあてる時間（どの程度が適当なのか） ・医師と経験者のペアリング
 ・学校との打合せ方法の確立 ・謝金について
（取組）学校の希望とすり合わせをしながら可能な場合は設定を行う。また、設定の際は、スムーズな計画が行われるよう、連絡体制が取れる医師と経験者のペアリングを検討する。